

## 第2学年1組 国語科実践事例

平成23年10月25日(火)5校時

2年1組 男子9名 女子11名 計20名

指導者：嶋原 洋子

場 所：2年1組 自教室

### 1. 単元名 人物のようすや気持ちに気をつけて読もう

「名前を見てちょうだい」 2年 東京書籍

### 2. めざす子どもの姿

#### (1) この単元で身につけさせたい言語の力

2年生の子どもたちは、不思議な空想の世界の中で思いを広げることが好きである。その雰囲気の中に十分ひたることができる一方で、文章の表現や内容などに注意して読み取るということについては難しい面もある。しかし、かといって内容に対して「どうしてこうなったのか」などの分析的な視点で読むのはファンタジーを題材にしたこの教材のよさをこわしてしまう恐れがある。それよりも、ファンタジーの世界を楽しみながら各場面において主人公に共感させることにより、作品にひたらせる中で読み取っていくことが大切である。そこで、主人公である「えっちゃん」の気持ちを書き込む「えっちゃんカード」を使い、場面ごとにえっちゃんの気持ちを読み取りながらいろいろなえっちゃんを見つけるという課題に取り組むことで、文章の細かいところにまで気を付けて読むということの大切さ、多様な読みをするおもしろさを味わわせたい。またその学習を生かして「えっちゃん」が出てくる作品を並行読書することによって、目的を持って読書することのおもしろさを経験させたい。そしてその経験を、教材の読みにも活かしていきたい。

#### (2) 身につけさせたい言語の力に関する子どもの実態

文学的文章を読むことについては、まず4月の「かくれんぼ」において話の順序をつかむことを学習した。音読を重ねたり、ペープサートを使っての活動を楽しみながら作品の世界に浸ることができた。次に6月の「お手紙」の学習では、初めて「場面」について知り、場面ごとの読みとりを行った。児童は登場人物それぞれに愛着を持ち、各場面それぞれにおいて「がまくんとかえるくんの好きなどころ」に着目して読みとりを進めることができた。また劇化を大変喜び、学習を終えてからも「劇をやりたい」というほどであった。

話すことについては、積極的に手を挙げ何度でも発言したがる子が多い一方で、自分からは手を挙げてなかなか発言しようとしないう子もいる。しかし、全員に発言を求める場面では何かしらの発言をすることができるため、ここはとあるところではノートなどにまず発表する内容を書かせ、一人ひとり順に発表させたり、隣同士で話させた上でおすすめの相手を紹介させたりするなどできるだけたくさんの児童が発言できる機会を持つと取り組んできた。話し方については、ある程度形はできているが、声の大きさなどは個人差が大きい。

聞くことについては、声をかけた時には気を付けられるが、特に「話は最後まで静かに聞く」についてはなかなか持続できない。朝の会でのスピーチなど、国語科だけではなく様々な場面において身につけられるよう指導している一方で、特に聞かせたいという時に聞き方のポイントを示した掲示を行うなどしている。しかし、静かにする、手を止めるなどの行為をするだけで聞いたつもりになって、話の内容を正しく聞き取れない児童が多い。そこで話のあとで内容について聞き返したり、整理したりして話の内容を聞いているか振り返る機会を多く設けている。

書くことについては、普段から一時間の学習の後に簡単な感想をまとめる活動を意図的に取り入れることで抵抗はなくなってきた。しかし、友達の発言を聞きながら自分なりに感想をまとめられる子もいる一方で、いつも同じような表現になってしまう子もいる。またたくさん書くという活動についてはなかなか集中が持続できない子もいる。子どもが書いたものを交流することでモデルを示したりすることで書くことに抵抗を持ちがちな児童も意欲的に取り組めるように支援している。

### 3. 題材の特質と指導の工夫

第1、2学年の「読むこと」の目標には、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせる」ということが上げられている。本単元の教材文「名前を見てちょうだい」は、場面ごとに場所や主人公が出会う登場人物が変わるので場面の順序や

様子がかみやすい。また、ファンタジーを題材とした教材であるため、その空想の世界を楽しみながら想像をふくらませることで、多様な読みが生まれるであろう。また、各場面ごとの読みとりの学習の終わりに、いろいろなえっちゃんを見つけてそれを伝え合う活動を取り入れることによって、学びの足跡を残していけるようにしたい。読書については「楽しんで読書しようとする」ということと「楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読む」ということが上げられているが、えっちゃんが出てくる他の作品をたくさん読むことで、「名前を見てちょうだい」においてのえっちゃんの人柄や気持ちをより深く読み取る手がかりとできるであろう。

**【質の高い言語活動を通して】**

読み取ったえっちゃんの気持ちを書き込むのに、短冊状の「えっちゃんカード」を使う。「えっちゃんカード」を書きため、シートに整理して残していく。できるだけたくさんのえっちゃんの気持ちを見つけることでより意欲的に学習を行えるのではないかと考える。それと同時にたくさん書くことに抵抗がある子も、一枚一枚書いたという達成感を持ち、自分のペースで書いてけるであろう。また、場面の様子や心情をより想像豊かにつかませるために、動作化や音読など体験的な活動を積極的に取り入れる。そして各場面で読み取ったことを生かしてお互いが見つけたいろいろなえっちゃんを伝え合うことで、物語の多様な読み、そしてそれを共有し合うことの楽しさを共有できればと考える。

**【学校図書館機能を生かして】**

単元に入る前からえっちゃんが出てくる作品を含めて同じ作者の本を用意しておき、自然な形でふれあえるようにした。また学校図書館の支援員さんによるブックトークや朝の読書タイムで読み聞かせを行い、興味を持てるようにした。

あまきみこの作品は多いが、えっちゃんが出てくる作品はそれほど多くない。しかし、作品数が限られている分、同じ作品を読んだ子どもが読書経験を共有することができ、互いに読み取ったことを紹介し合うことでまた違ったおもしろさを味わうことができるのではないだろうか。また、次に読んでみたいと思う本も絞りやすく、より目的意識を持って読書に臨めるのではと考えている。

**4. 評価規準**

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>えっちゃんの行動や気持ちに興味を持ち、進んでいろいろなえっちゃんを見つれたり、えっちゃんについて書いた作品を読んだりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面の様子に気を付けながら、えっちゃんの行動や気持ちを想像豊かに読み取っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>場面を意識して、登場人物の気持ちや心情が表れているところを書き抜いている。</li> <li>えっちゃんが出てくる作品を読み、そのおもしろさを紹介している。</li> </ul>

5. 単元計画(全15時間)(本時10/15時間)

【単元目標】

- ・場面に気を付けて、人物の様子や気持ちを読み取ることができる。
- ・「えっちゃん」が出てくる他の作品に親しみ、そのおもしろさを友達に紹介する。

次	時間	指導内容	主な学習活動
一	3	○学習の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出てくる人物や様子を確かめながら場面を分けてあらすじをつかむ。</li> <li>・初発の感想を書き、交流する。</li> </ul>
二	8	<p>○場面ごとに、えっちゃんの気持ちを読み取り、見つけたえっちゃんを伝え合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・場面を通読し、えっちゃんの気持ちがよくわかるのと、見つけた気持ちをえっちゃんカードに書く。</li> <li>・見つけたえっちゃんの気持ちを、動作化や音読で確かめる。</li> <li>・学習で見つけたいろいろなえっちゃんを発表させ、まとめる。</li> </ul> <p>○「名前を見てちょうだい」で見つけたえっちゃんをまとめる。</p>	<p>えっちゃんが出る作品の並行読書</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① P 6～7まででえっちゃんの気持ちを読み取り、ぼうしをもらってうれしいえっちゃんの気持ちについて伝え合う。</li> <li>② P 8～11の9行目までのえっちゃんの気持ちをえっちゃんカードに書き込む。</li> <li>③ P 8～9の8行目までで、えっちゃんカードをもとに自分のぼうしを見つけようと一生けんめいなえっちゃんの気持ちについて伝え合う。</li> <li>④ P 9の9行目～P 11の8行目までで、えっちゃんカードをもとに自分のぼうしを見つけようと一生懸命なえっちゃんの気持ちについて伝え合う。</li> <li>⑤ P 11の9行目～P 16までのえっちゃんの気持ちをえっちゃんカードに書き込む。</li> <li>⑥ P 11の9行目～P 14の10行目までで、えっちゃんカードをもとに、一人になっても大男に負けない勇気のあるえっちゃんの気持ちについて伝え合う。</li> <li>⑦ P 14の11行目～P 16の9行目までで、えっちゃんカードをもとに大男からぼうしを取り返した強いえっちゃんの気持ちについて伝え合う (本時 7/8)</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最後の場面を読み、作品全体を通して好きなところを音読などで紹介し合う。</li> </ul>
三	4	○えっちゃんが出てくる他の作品を読み、友達と紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・えっちゃんが出てくる他の作品を読み、おもしろかったところやいろいろなえっちゃんを見つける。</li> <li>・クラスの友達に自分の気に入ったえっちゃんが出てくる作品を紹介しあい、学習をふりかえる。</li> </ul>

## 6. 本時の目標

・ P 1 4 の 1 1 行目から P 1 6 の 9 行目までの場面について、えっちゃんの気持ちを読み取り、見つけたいろいろなえっちゃんについて交流し合う。

## 7. 本時の展開

学習活動	指導のポイント (教師の支援・予想される児童の反応)	評価、評価方法
<p>1, 本時の学習のめあてを確認する。 めあて「いろいろなえっちゃんを見つけよう」</p> <p>2, 学習する場所を通読し、見つけた気持ちを発表する。 ① 1 5 ページ最後まで ② 1 6 ページ 9 行目まで</p> <p>3, 今日の場合、いろいろなえっちゃんを見つけよう。</p> <p>4, 学習のふりかえりをする。</p>	<p>○前時の終わりに書いたふりかえりを紹介する。</p> <p>○学習する場所を確かめて、全員で一斉に読む。</p> <p>○手がかりとなる言葉から見つけた気持ちが伝わるように、お面を使った動作化を取り入れる。</p> <p>○前に書いておいたえっちゃんカードをもとに、指名していろいろな子の声が引き出せるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絶対ぼうしをとりもどす。</li> <li>・大切なぼうしを食べるなんて許さない。</li> </ul> <p>○どのことばでそう思ったかを発言させ、3で行った板書を確認しながら、いろいろなえっちゃんを見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふしぎなえっちゃん</li> <li>・かっこいいえっちゃん</li> <li>・強いえっちゃん</li> </ul> <p>○一人ひとりの読みを共有し合えるように、発言した子以外の子の考えが表れるようにハンドサインや指名を行う。</p>	<p>【話】自分が見つけた気持ちを、わかりやすく伝えている。 (発言、動作化)</p> <p>【読】読み取ったことをもとに、いろいろなえっちゃんを見つけることができる。 (発言、ワークシート)</p>



## ◎考察

### 【質の高い言語活動を通して】

どの子どもも意欲的に伝え合う活動に入れるようにと今回はえっちゃんカードに書く活動を全体で読み合う学習の前に取り入れた。そのことにより一人ひとりが自信を持って読み取る活動に臨めたが、本時の目標と照らし合わせてみると、ただ見つけたえっちゃんについてそれぞれの子どもが発表し合うことに活動の重さが置かれてしまい、文章の表現一つひとつについて立ち止まり、読み取りを深める場面が少ないという問題点があった。動作化や音読についても、一つの場面をとらまえてじっくりクラス全体で確認する場面がもう少し必要であったと考える。今回、ふだんなかなか言語活動に入りにくい児童にも意欲的に取り組めるようにと考えて仕組んだえっちゃんカードによるえっちゃん見つけの活動であったが、かえって読み取りの学習からそれてしまうという課題が出てきた。言語活動はあくまでも手段であり目的であってはいけないという大切な点から、言語活動の仕組み方について改めて考えさせられた。

### 【学校図書館機能を生かして】

今回は、第一次に支援員さんからブックトークをしていただいた。これは、えっちゃんシリーズを始めとしたあまんきみこの作品の紹介と、いろいろな短編作品が入った本のおもしろさを知らせるというねらいから行った。支援員さんが教室に来て下さってブックトークをして下さるのは子どもたちにとって初めての経験であり、とても楽しんでた。そして、そのあとの並行読書への動機付けになっただけではなく、互いにブックトークのことを思い出しながら読むことで、読書経験を共有する楽しさを味わっていた。

また、第三次で自分のおすすめの本を紹介する時にも、ブックトークをイメージして本のおすすめの箇所を紹介したり、一節を音読して見せたりと紹介の仕方を工夫している子もいて、表現の仕方も学べた。

並行読書については、児童が並行読書を初めて経験するという点で本単元では、まずは並行読書に慣れさせることをねらいとして、学習に並行して関連する本を読む、そしてそこで見つけたことを読書記録として残すということを主な活動として位置づけた。子どもたちは、読書記録をたくさん貯めるということを楽しみに意欲的に読書を進めていった。

説明文教材と比べて、並行読書によって学んだことを自ら読みに生かしていくということは難しかった。しかし読書記録では、えっちゃんの口ぐせや、友達やお母さんとの関係などについて教材との関連性を見つける姿が見られた。それを教師が把握し、授業の導入時や、読解の活動の時などに「えっちゃんニュース」としてクラス全体で知らせることにより、えっちゃんの人物像や背景などの読み取りや、イメージをふくらませることへの大きな手助けとなった。

えっちゃんシリーズは作品数が限られているが、その分並行読書の過程においても、第三次のおすすめの本紹介の時においても「あー、その本読んだ。」「それ、ここがおもしろいよね」というような会話がよく聞かれた。自分の読んだことがない本の紹介を楽しみに聞きあえたのはもちろんであるが、自分が読んだことがある本についての紹介を聞いた時も、自分の読みと比べて共感したり、自分と違うところに着目して感想を述べたりといつもの読書紹介とは違った視点で臨むことができた。

ただその一方で、並行読書で読み取ったことを、教材のより深い読み取りに生かすという点については不十分なところがあった。この教材の学習に並行読書を取り入れることが適切かどうかも含めて、低学年の物語文についての並行読書のあり方について検討していく必要があると考える。

